

防衛大学校本科第49期、理工学研究科前期課程第42期、  
同後期課程第2期及び総合安全保障研究科第7期学生卒業式  
防衛大学校長式辞（平成17年3月21日）

防衛大学校本科第49期、理工学研究科前期課程第42期、同後期課程第2期及び総合安全保障研究科第7期の学生諸君は、本日をもって所定の課程を修了します。ここに卒業式典を挙げるに当たり、私は本校の教職員一同と共に、諸君に対し心から祝意を表します。



第7代学長 西原 正

本日のこの栄えある式典に、国務ご多忙の折りにもかかわらず、小泉内閣総理大臣<sup>注(1)</sup>、扇参議院議長<sup>注(2)</sup>、大野防衛庁長官<sup>注(3)</sup>をはじめ、内外多数の来賓各位のご臨席を賜りましたことを誠に光栄に存じますと共に、衷心よりお礼を申し上げます。また遠路はるばるご参列下さいましたご父兄の皆様には、ご子女のご卒業をこの上なくお喜びのこととお察しいたします。長い間のご支援とご理解に厚くお礼を申し上げます。更にこの式典には、43年前に卒業された大先輩の防大6期生の方々がホームカミングデーとして参列され、若い後輩諸君の門出を祝福して下さいています。

本科卒業生の諸君は、本日任官して陸・海・空自衛隊のそれぞれの幹部候補生学校に進み、いよいよ幹部自衛官になるための道を歩み始めます。諸君は4年前の平成13年4月、大きな希望と一抹の不安をもって、ここ小原台の門をくぐったことでしょう。それからの4年間、規律ある集団生活、切り詰めた日課の中での勉学、校友会活動などを見事にこなし、幾多の試練を越えて、本日この日を迎えるに至った達成感は、何にも代えがたいものでしょう。しかし本日は、こうして鍛えた知力、精神力及び体力を崇高な国防の任務に捧げるためのスタートの日でもあります。

平時の国防は、戦時の国防よりも困難であると言われます。平時では国民の多くが平和を享受し、国防の重要性に注意を向けないからです。

---

注(1) 小泉純一郎

注(2) 扇 千景

注(3) 大野功統

しかしこういう時こそ、国防に携わる諸君は、自国にとっての脅威の要因を注意深く警戒していなければなりません。また自衛隊の今後の国際的な役割は一層増大しそうですが、諸君は予期せぬ時に予期せぬ任務があることを覚悟しておくべきです。

このため諸君には、柔軟な思考力をもった指揮官になれるよう、日頃の研鑽が必要です。古典や歴史書に親しむことによって、人間への洞察力を深め、高い倫理感を磨く傍ら、勇気と忠誠、正義と責任感を尊ぶ精神を涵養してくれることを要望します。

理工学研究科前期課程、後期課程及び総合安全保障研究科を卒業する諸君、自衛隊の本来の業務をしばし離れて、それぞれの専門分野の研究に没頭し、見事所期の成果を収めたことに対し、お祝いを述べます。国防の基本のひとつには、技術研究開発があります。科学技術が目覚ましい進歩を遂げる今日、研究開発の遅れは国防の安全を損ないかねません。その意味で、諸君の責任が今後とも極めて大きいことを自覚して仕事に励んで下さい。同様に、国際法や戦争史への造詣を深め、自国や地域の安全保障のための戦略を考究することも、国防にとっては不可欠の作業です。

最後になりましたが、本科及び研究科で学び、本日卒業する7カ国からの留学生諸君21名は、慣れない日本の文化習慣に戸惑い、日本語に苦勞しながら、所期の成果を収めたことに心からの敬意を表したいと思えます。また長きにわたり、留学生に対して我が子のように面倒を見て下さった協力家庭の方々に、お礼を申し上げます。留学生諸君は、小原台で培った友情を基に、祖国の防衛のため、また国際平和のため、国境を越えて協力し合えるようになることを期待します。

卒業生諸君、いよいよ小原台生活に別れを告げる時がきました。学生歌にあるように、「祖国を思い」、「勇智を磨いて」飛躍して下さい。我々教職員一同は、諸君の健闘を祈っております。

諸君、卒業おめでとう。